



世田谷・九条の会 19周年のつどいに参加して

11月9日(土) 同志社大学名誉教授 浜矩子さんの「経済政策は誰のため、何のため?~本当の経済安全保障を目指して~」と題した講演に行ってきました。

6つのポイントに整理してお話ししました。それは、① 石破茂は何男? ② カマラ・ハリスはなぜ敗北したか ③ 真の経済政策の使命は何か ④ 使命に忠実な経済政策は何か ⑤ 責任者たちが持つ資質・条件は ⑥ 本当の経済安全保障 です。

石破茂はひらめ男だそうです。(水の底で様子を伺い、立ち回り、浮上を狙う)

経済政策の使命は、人間を幸せにするものであって、全体や経済指標を見るのではなく、その中で困っている弱者を救済する政策が必要とのことです。インフレ・デフレのバランスをとることが重要とのこと。

米大統領選で、ハリスが負けたのは、指標だけ見て(以前よりよくなっている)今、物価高や低賃金で困っている人に目を向けなかったためだと。全員が最適で、偏在ではなく遍在(普遍的にいきわたっている)でなくてはならない。格差を解消すべきということです。

では、そのような政策の責任者の資質・条件は何か。涙する目(人の痛みをわが痛みとできる)、傾ける耳(傾聴、聞き取る力)、さしのべる手(弱者に惜しみなく差し出す、公助)、見分ける力(識別する力、見極める力)を持っていることです。

最後に、本当の経済安全保障とは何か。奪い合いではなく”分かち合い”。それは、憲法前文に書いてあります。「諸国民との協和による成果と、わが国全土にわたって自由のもたらす恵沢を確保し・平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して(抜粋)」のところがまさに“分かち合う”ことだということです。

あっという間の90分の講演でした。参加者は会場いっぱい、座れない方もあり、大盛況でした。浜さんのお話しもわかりやすく、本当によかったです。充実した社会保障こそ、健全な財政だということも心に残りました。撮影していたようなので、世田谷・九条の会のHPから見られるかもしれません。
(代田4丁目・萱野 幸子)

上田に九条の碑、発見！！

11月4・5日と長野県上田に旅行に行きました。福島原発事故で見捨てられた牛たちを描いている戸田みどりさんの個展を見に行ったのですが、近くなのでまだ行ってなかった無言館にも行きました。無言館から残照館に行く途中になんと、九条の碑を発見しました。ちょうど4日が除幕式だったそうです。となりに、憲法前文、金子兜太さんの俳句弾圧不忘の碑も。無言館館主の窪島誠一郎さんの土地に建てられたそうです。今、全国に九条の碑がたくさん建てられていることは知ってましたが、上田で見られて、すごく嬉しかったです！

(代田4丁目・萱野 幸子)



~ 私たちが住み、暮らし、働いているまち 代田で、

「日本国憲法第9条」をまもり、活かす活動をすすめましょう ~

+++ このニュースを、ぜひ、周りの人に広めてください。 +++

日米のとんでもない選挙結果に、いざ覚悟の時！

前半だけか前後1文字ずつか、どう略しても「国民」になってしまう、厄介なあの党名は「玉民」と、日本人一般は「市民」と書くことにします。

まずは総選挙の確認。野田・立民は実質的には敗北しました。あれだけの追い風を受けたのに比例票は横ばい、選挙区の総得票数は減少したのですから。自民がそれ以上に票を減らしてくれたおかげで議席が増えたというだけ、むしろ取りこぼした選挙区が、八王子をはじめいくつあったことか。首相指名で律儀な共産党以外の全野党にソッポを向かれたことこそが「民意」……とは受け止めないでしょうね、彼は。

市民が立民の代わりに期待したのは玉民でした。しかしウカレた玉木代表は自・公与党にすり寄る気があからさま。公約の本気度にも「？」がつき始めたところに不倫騒ぎ、さらに弟が詐欺で告発されました。減税を嫌った財務省の陰謀だという説の真偽はさておき、玉民がガタつくことは間違いありません。

これは、玉木ならチョロいとふんでいた石破政権にとっても打撃です。高市・麻生ラインも怖いし、来年の参院選まで、誰にすげればいいのか？

答えは、世界がポチと認めた安倍元総理以来のご主人様こと、復活してしまったトランプ米大統領でしょう。万一ご機嫌を損ねたら石破内閣はおしまいだと、兵器爆買はもちろん、「自衛隊」と書いて「米軍日本人部隊」と読ませていただきます！レベルのご奉仕に走りかねません。

絶望的？ でもこの国政の混沌は、私たち市民が「望んで」惹き起こした事態。与党と大手メディア、そして妙なSNSのデマに惑わされず、腹を括って決して後へは引かない一生きて踏みとどまる道はこれしかなさそうです。
(梅丘1丁目・真藤 一彦)

映画「ガザからの報告」を観て

パレスチナ取材続けて30年の、土井敏邦監督作品。

新聞、テレビでウクライナ、パレスチナの状況は知れば知るほど苦しくなる。この映画は全200分の作品。「ある家族の25年」と「民衆とハマス」の2部構成。

1993年9月、「オスロ合意」平和ムードの中、真の平和ではないと見極める人がいて、「ハマス」はより過激になり、一般市民と乖離するようになる。

「ハマス」による2023年10月7日のイスラエルへの越境攻撃はあまりにも残虐・過激で筆舌に尽くしがたかった。そのイスラエルによる何十倍にもなる反撃で、ガザ地区の85%にもなる崩壊と、4万人以上にもなる逃げ場のないガザ地区の人々の死。それはいまだ続いていてどうしていいかわからない。一度はイスラエル大使館にデモに行ったけれど…。先日の大統領選挙で二度目の大統領となるトランプは、よりイスラエル寄りと発言。きっと日本も追随することでしょう。

あのイスラエルの青春映画「グローイングアップ」が懐かしい。でも、そのころもパレスチナでは…。
(梅丘1丁目・湯沢 勉)

集会等の紹介

11月23日(土) 13:30～ 代田・九条の会16周年のつどい

お話：「史実と体験から“戦争だけは駄目”の思いを」

川嶋 みどりさん

(日本赤十字看護大学名誉教授
健和会臨床看護学研究所所長)

場所：東京都民教会(代田5-35-2・下北沢駅から徒歩6～7分)

主催：代田・九条の会

11月30日(土) 14:00～15:30

沖縄の闘いに呼応して「本土」でも声を上げよう！11.30国会前アクション

場所：国会正門前

主催：「止めよう！辺野古埋立て」国会包囲実行委員会

協賛：戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会

